

## 2016年度統計関連学会連合第3回理事会・組織委員会議事録

日 時：2016年12月10日（土）13:00 – 15:00

場 所：統計数理研究所八重洲分室（八重洲ダイビル104-105号）

出 席：欠席者からは委任状受領

### 【学会連合理事】

応用統計学会	永田 靖, 栗本一哲
日本計量生物学会	大橋靖雄, 浜田知久馬
日本計算機統計学会	栗原考次, 大石雅彦
日本行動計量学会	岡太彬訓, 菊地賢一
日本分類学会	今泉 忠, 中山厚穂
日本統計学会	岩崎 学, 中野純司

【連合大会実行委員会】 星野伸明 (2016), 白石高章 (2017)

【連合大会運営委員会】 桜井裕仁 (2016), 川崎能典 (2017)

【連合大会プログラム委員会】 林 篤裕 (2016), 谷崎久志 (2017)

幹事 田中研太郎, 松浦 峻

### 配付資料

1. 2016年度統計関連学会連合第2回理事会・組織委員会 議事録（案）
2. 2016年度統計関連学会連合第3回理事会・組織委員会 議案
3. プログラム委員長（2016）からの報告
4. 2016年度統計関連学会連合大会 予算案
5. 2016年度統計関連学会連合大会 会計報告
6. 2016年度統計関連学会連合大会 決算報告
7. 2016年度統計関連学会連合大会 会計報告に対する意見
8. 2017年度運営委員会役割分担案
9. 南山大学名古屋キャンパスマップ
10. 統計関連学会連合版「統計家の行動基準」（案）
11. IFCS-2017 チラシ

### 前回議事録の確認

岩崎理事長より、2016年度第2回理事会・組織委員会議事録（配布資料1）が報告され、承認された。

## 組織委員会・議案

### 1. 2016 年度連合大会報告及び決算

(1) 林プログラム委員長(2016 年度)は欠席のため、林プログラム委員長より提出された資料(配布資料 3)に基づき、岩崎理事長が代理で報告を行った。

- ・企画セッションの申し込み数が非常に多かったため、ハンドリングが難しい部分があった。場合によっては、学会ごとに申し込み数の上限を設けることなどを検討してもよいかもしれない。
- ・セッションの平行数が 10 になっており、似た研究テーマの発表が同じ時間帯の別セッションになってしまうことも起きている。場合によっては会期の延長を検討してもよいかもしれない。(岩崎理事長より、ひとまず来年はそのままの日数の開催となるとの説明があった。)

(2) 桜井運営委員長(2016 年度)より、配布資料 4,5,6,7 に基づき、以下の報告があった。

- ・会計報告の監査が終了。坂本会計監査担当から承認を受けた。
- ・収入は、予算案より 100 万円ほど多くなっているが、これは大会収入、広告・展示、金額未定のためゼロとしていた寄付・助成金の 3 項目が増えたことによるものである。なお、寄付・補助金収入は、石川県と金沢市からの助成金のうち、金沢市からの助成金の一部が振り込まれたものである。
- ・会計・決算報告に書かれている大会等の参加人数は、有料で参加した人数であり、事前参加登録して大会当日は欠席した者も含む。
- ・支出も予算案より 100 万円近く多くなっている。これは、補助金収入を見越して、web ページ作成、招待者補助など、例年にはないものも支出しているためである。
- ・支出の増加で特に多いのは、「懇親会費」、「文具・事務費」、「その他」の 3 つである。これらは、助成金収入を見越して支出が多くなっている。特に「その他」の内訳にある「招待者サポート」と「Web ページ作成」は、予算案にはなかったものであるが、組織委員会で議論し、積極的に支出することが決まったものである。「懇親会費」の支出増加については、参加者が想定 200 名よりも 60 名ほど増えたことも 1 つの原因となっている。
- ・助成金によるサポート対象者は 25 名で、そのうち、大会参加者は 23 名であった。サポート範囲は、大会参加費、懇親会費、日本国内の移動旅費(日本・海外間の往復航空運賃は入っていない)、宿泊費(4 泊を上限)とした。
- ・業者には、プログラム速報版の作成、海外招待者の連絡調整業務を追加で委託し、10 万円程度かかった。
- ・12 月 10 日現在、助成金の振込が完了しておらず、現状では予備費が 160 万円台となっている。
- ・坂本会計監査担当からは以下の 2 点のコメントがあった。

- ・今回は石川県と金沢市からの助成金があったため、招待者への厚いサポートを行うことができたが、来年度以降は、計画的な予算の立案・執行をお願いしたい。
  - ・助成金が全額振り込まれてから、2016年度中に再度監査を行ってはどうか？
- 議論がなされ、石川県と金沢市からの助成金収入を2016年度会計・決算報告に含め、これらの資料の修正版を作成すること、および、2016年度中に再度、坂本会計監査担当に監査をしていただき、次回の組織委員会までにその報告と承認を行うこととなった。
- ・予算案に関して、4月開催の組織委員会で当初案よりも学生の懇親会費を値下げしたこと、通信・運搬費の小計にバス増発協力費が含まれていなかったこと、予算案の体裁を修正したこと、などのため、今回、修正版を配付した。
  - ・10月4日に大会報告をウェブページで公開し、大会の参加人数等を発表した。その後、業者の集計ミスが判明した。今後、大会報告の修正版を速やかに公開するとともに、6学会事務局と会報等に参加人数の情報を掲載済・掲載予定の3学会の担当理事に上記の修正報告をすることとなった。最終的な参加者数は次の通りである。チュートリアル：252（修正なし）、市民講演会：197（修正なし）、本大会：816 → 835、延べ参加者数：1,265 → 1,284。

(3) 星野実行委員長(2016年度)より、以下の報告があった。

- ・助成金は石川県から290万、金沢市から145万、合計435万円の見込みで、審査を受けている最中である。
- ・助成金以外の事務処理は全て終わっていて、特に問題は起きていない。
- ・特に、外国からの招待者に対して塚原教授にご尽力いただいたのでお礼を言いたい。

2. 2017年度連合大会各委員会委員の追加承認

- ・以下の通り、2017年度連合大会各委員会委員の追加承認が行われた。
- ・谷崎プログラム委員長(2017年度)より、汪プログラム副委員長(2017年度)の追加が報告された。
- ・川崎運営委員長(2017年度)より、運営委員会の新体制について配布資料8に基づき説明がなされた。引継ぎ会議を12月27日(火)の午後に行うことが報告された。また、運営委員会の委員長推薦において、次の委員長である笛田教授にもお願いしたが、次は委員長になるので、2018年度は委員長推薦ではなく、学会からの推薦をお願いしたいとのことであった。

・プログラム委員会

委員長：谷崎久志（大阪大）

副委員長：汪 金芳（千葉大）

応用統計学会：星野崇宏（慶應義塾大），南美穂子（慶應義塾大）  
日本計算機統計学会：渡辺敏彦（日本CRO協会），松井秀俊（滋賀大）  
日本計量生物学会：山本英晴（中外製薬），田栗正隆（横浜市大）  
日本行動計量学会：玉利祐樹（東京大），大橋洸太郎（立教大）  
日本分類学会：飯塚誠也（岡山大）  
日本統計学会：元山 斉（青山学院大），寺田吉孝（大阪大）  
委員長推薦：増田淳矢（中京大），白石高章（南山大）

・運営委員会

委員長：川崎能典（統計数理研）  
応用統計学会：佃 康司（東京大）  
日本計算機統計学会：下川敏雄（和歌山県立医科大），藤野友和（福岡女子大）  
日本計量生物学会：魚住龍史（京都大），柏原康佑（東京大）  
日本行動計量学会：久保沙織（早稲田大），谷岡健資（和歌山県立医科大）  
日本分類学会：上野隆彦（聖マリアンナ医科大）  
日本統計学会：姫野哲人（滋賀大），川野秀一（電気通信大）  
委員長推薦：二宮嘉行（九州大），松浦 峻（慶應義塾大），笛田 薫（岡山大），  
廣瀬雅代（統計数理研）

・実行委員会

委員長：白石高章（南山大）  
委員：松田眞一（南山大），阿部俊弘（南山大），大月英明（南山大），  
林 篤裕（名古屋工業大）

### 3. その他

#### 組織委員会・報告

##### 1. 2017年度大会の準備状況

###### (1) 実行委員会

- ・白石実行委員長(2017年度)より南山大学で9月3日～9月6日に2017年度統計関連学会連合大会を行うことが報告された。また，各日とも8時半～19時まで会場（配布資料9）を確保したことが報告された。
- ・チュートリアルセッションと市民講演会の会場や，展示ブースを廊下とするか部屋とするかについて，議論がなされた。

###### (2) 運営委員会

- ・川崎運営委員長(2017年度)より，以下の報告があった。

- ・年が明けたら下川運営委員(2017 年度)と南山大学にいて、部屋の配置などの予定を議論する。
- ・委員会に関する交通費の支出について、各委員長に領収書を渡すなどを出してほしい(経路がわかるメモも添付。また、領収書をもらえないものはバス会社のホームページなどで、金額がわかるものを添付する)。その後、会計担当から振込みを行う。
- ・広報から、第 1 報の原稿をできれば 12 月 16 日までに欲しいとのことであった。
- ・桜井実行委員長(2016 年度)より、以下のコメントがあった。
  - ・招待者の定義をしっかりと決めておいてほうがよいのではないか。2016 年度は 6 月の下旬に決まって、その 1 ヶ月後にアナウンスを行ったが、2017 年度はできれば 4 月の組織委員会で方針をほぼ決めたほうがよいのではないか。

## 2. その他

- (1) 岩崎理事長より、2017 年度統計関連学会連合大会について以下のコメントがあった。
  - ・今年と同様、英語セッションをいれてほしい。海外からの参加者にとって重要ではないかと思われる。
  - ・英語の Web ページを少しでも作ってほしい。いつどこで何が行われる、だけでもよい。外部委託による作成でも問題ないと思われる。
  - ・県人会を行うことを検討してほしい。教育は県単位で行われるため、教育関係者にどの県にどのような統計学者がいるのかを知ってもらいたい。地方公共団体がオープンデータを使った意思決定を行うことを考えているため、地方公共団体の人に連合大会に来てほしい。

→今泉理事より、県人会についてはレセプションのような感じでやるというのはどうかというコメントがあった。
- (2) 広報について、星野実行委員長(2016 年度)より、2016 年度は例年とは異なり、第 3 報ではなく第 4 報まで出したが来年はどうするか、とのコメントがあった。

## 連合理事会・議案

### 1. 欧文ジャーナルの扱い

- ・日本統計学会は、3 月に社員総会があり、そこで議論を行う予定。e-ジャーナル化はほぼ規定路線であるが、タイトルをどうするか、例えば、タイトルに「Japanese」を入れるかどうかなどを議論する予定。また、現在の英文誌は廃止の予定。
- ・計算機統計学会は、前向きに検討しており、審議の結果、一緒に JJS 構想に参加の方向となっている。現在の英文誌は廃止の予定。
- ・応用統計学会としては、そもそも英文誌がないため、もちろん協力の予定。ただし、財

政は苦しいため、人的協力の予定。

- ・分類学会のほうは現在、幹事会に諮っているところ。3月に委員会があるのでそこで決定する。自前の英文誌の ADAC は続ける。それを踏まえて、どのように協力するのか、Associate editor を出すのかどうかなど、議論する。
- ・行動計量学会は、今は英文誌の Behaviormetrika を頑張っている最中なので、どこまで参加できるかは未定。どのように参加するかを議論する。編集委員会については、寄り合い所帯みたいな感じにするよりも、Editor がある程度人脈を持って委員を集めるほうがうまくいかもしれない。
- ・計量生物学会は英文誌の Biometrics は続けるが、協力はする予定。
- ・以上を踏まえて、来年4月の連合理事会で方針を確定することとなった。

## 2. 統計家の行動基準・倫理綱領

- ・統計家の行動基準（配布資料 10）について議論がなされた。次回の連合理事会で承認し、その後、ホームページに掲載の予定。

## 3. その他（2018年度連合大会開催場所）

- ・2018年度連合大会開催場所はまだ決定していない。いくつかの候補について議論がなされた。

## 連合理事会・報告

### 1. 各種イベントへの後援

以下の後援依頼があったため、承認を行ったことが報告された。

- ・数学・数理科学4研究拠点合同市民講演会「クリスマスイヴ<sup>2</sup>の数学ワンダーランド」  
日時：平成28年12月23日（金）13:00 開場 13:30 開演  
場所：九州大学西新プラザ（〒814-0002 福岡市早良区西新 2-16-23）  
募集対象：主として高校生、一般の方も（先着100名）参加費無料
- ・文部科学省委託事業「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム」（数学協働プログラム）CREST・さきがけ・数学協働プログラム合同シンポジウム（2017.2.11-12）

### 2. その他

- ・今泉理事より IFCS-2017（配布資料 11）の紹介があった。
- ・次回の理事会は4月22日あたり。場所は未定。理事長選挙が行われる予定。